

## 【財務分析概況説明】

### 資金収支計算書

法人全体での令和5年度の資金収入のうち、主要な収入源となる学生生徒納付金収入は前年度決算額との対比で5,416万円減少、補助金収入も前年度決算額との対比で6,515万円減少しました。これは各設置校の学生・生徒数の減少が主な要因となっています。この他寄付金収入は短大創立40周年を契機に募集に努めた結果、対前年度決算額で513万円の増額となりました。

一方これに対する資金支出のうち主要なものとなる人件費支出は退職者の増加等により前年度決算額との対比で1億1,795万円増加しました。一方予算執行管理において努力した結果、教育研究経費は対前年度決算額との対比で191万円減少、管理経費は9,019万円減少、施設関係支出は1,365万円減少、設備関係支出は5,224万円減少となりました。

このような収入・支出状況の結果、翌年度繰越支払資金は、前年度末に比べ1億3,096万円減少しました。ご覧いただいておりますように本学園は資金の借入れはありませんので、当年度の純粋な資金の収支としてはこの支払資金の減少分が支出超過であったといえます。

なお、その他の収入、資産運用支出およびその他の支出の各項目については予算との差額が大きめに表れておりますが、これらは有価証券の一部入れ替えがあったこと等による会計処理に伴うもの、あるいは預り金の出入りに関するもので、収入と支出がほぼ相殺されており、実際の資金の支出・損失等は発生しておりません。

内訳表により設置校ごとの収支を見てみると、学生・生徒数の減少に伴い短期大学及び高等学校が支出超過となっておりますが、大学は収入超過を維持できました。

### 活動区分資金収支計算書

資金収支計算書をもとに、それぞれの活動区分ごとの収支を見てみると、教育活動による資金収支は1億1,612万円のマイナス、施設整備等活動による資金収支は6,656万円のマイナス、その他の活動による資金収支は5,172万円のプラスとなり、収支差額の総額としては上記の資金収支計算書の通り、支払資金は対前年度で1億3,096万円の減少となっております。

### 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書では、資金収支計算書の科目に加え、実際の資金の支出を伴わない数値上の支出額ですが、人件費に退職給与引当金が、教育研究経費及び管理経費に減価償却額等が加算されること、また、人件費比率も依然として高く、これらの影響で教育活動収支では3億5,876万円のマイナスとなりました。一方、教育活動外収支では5,292万円のプラス、教育活動と教育活動外収支を合わせた経常収支では3億584万円のマイナスとなりました。また、特別収支では3,581万円のプラスとなり、当年度収支差額は、2億7,003万円のマイナスとなりましたが、予算額よりは改善することができました。

内訳表により設置校ごとの収支を見てみると、こちらも短期大学、高等学校は支出超過という状況が続いておりますが、大学部門は収入超過となり収支の改善傾向が見られます。

### 貸借対照表

上記の資金収支及び事業活動収支の結果、令和5年度末における本学園の財産状況を示す貸借対照表では、資産の部の合計額は前年度に比べ2億5,132万円減少し、147億1,643万円となりました。建物・施設設備などの除却や減価償却等による減少分が反映されています。

これに対して負債の部の合計額は、前年度に比べ1,870万円増加し10億1,278万円でした。また、本学園では資金の借入は行われておらず無借金を維持しております。

純資産の部のうち、基本金については、第2号基本金特定資産の取り崩しがありましたので7,166万円減少しています。純資産の部合計額は前年度から2億7,003万円減の137億365万円となりました。

### 財務比率表

上記の各計算書から算出した財務比率を分析してみると、負債比率が極めて低く、運用資産余裕比率や純資産構成比率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態が維持されています。

しかしながら、本年度は法人全体での人件費比率の上昇等により、単年度の収支では教育活動による資金収支においてマイナスとなっております。私学事業団による定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分では、昨年度に引き続き「B0」区分に位置づけられることとなりますが、次年度も引き続きこの教育活動資金収支差額がマイナスとなりますと「イエローゾーン」の区分に分類されてしまうため、これを「B0」区分から「A3」区分以上に改善すべく、今後も中期計画に基づいて学園全体で学生募集を順調に進めるとともに補助金や新たに寄付金等外部資金の増額にも努め、さらに一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、学園の持続性を維持するため、次年度以降の収支比率を好転していけるよう努力していく必要があります。